AFRICA　一般社団法人 アフリカ協会

もっとアフリカを知り、経済、技術、文化の交流を促進します

月刊アフリカニュース

2019 年　9 月　17 日　　No. 83

目　次　（「青色文字」クリックで当該情報にジャンプします

巻頭言　「時はうつろう！、人はうつろう？」　編集委員長　福田　米藏 ・・・・・・2

特　集－１　「2019 TICAD 7 首脳会合　概要」　編集委員　高田　正典・ ・・・・・3
特　集－２　「TICAD 7 サイドイベント情報」　編集委員　布目　正浩　・・・・・10
－STS フォーラムでアフリカ協会・大島理事長がパネル討議の議長に－

在外公館ニュース　(8/16～9/15 公開月報)　編集委員長　福田　米藏 ・・・・・・11
アルジェリア月報（７・８月）　ウガンダ月報（７月）　コンゴ(民)月報（８月）ザンビア月報（７月）
セネガル月報（７月）　ナミビア月報（８月）　ベナン月報（６・７月）ボツワナ月報（７月）
モザンビーク月報（６月）　モーリタニア月報（７・８月）　ルワンダ月報（７月）

特別ニュース　顧　問　堀内　伸介・・・・・・ 18
アフリカ全般　アフリカ西部　ウガンダ　エチオピア　ガーナ　カメルーン
ケニア　コンゴ（民）　スーダン　チャド　チュニジア　ナイジェリア
ナミビア　ブルンジ　マラウイ　南アフリカ　モザンビーク　ルワンダ

お役立ち情報　顧　問　堀内　伸介・・・・・・ 27
「UNECA：アフリカ大陸経済統合に向けて、９版」

JICA 海外協力隊寄稿
「タンザニアの体育と教育」－スポーツ・運動との出会いと成長－
2017 年度 3 次隊　体育　タンザニア
モロゴロ中等学校　田中　佑啓・・・・・・・28

アフリカ映画情報　特別研究委員　高倍　宣義 ・・・・・・33
アフリカ協会からのご案内　－協会日誌－　事務局長　成島　利晴 ・・・・・・34
服部禮次郎アフリカ基金助成申請　サブサハラ奨学基金
公益信託アフリカ支援基金　助成申請　第３回高校生エッセイコンテスト　第５回懸賞論文募集

編集・発行：　一般社団法人　アフリカ協会　月刊アフリカニュース編集委員会
編集委員長　福田　米藏 / 編集委員　エディター　高田　正典

巻頭言

「時はうつろう！、人はうつろう？」

令和元年の長月も１０日余り、今年の重陽の節句は首都圏直撃では過去最強の台風 15 号が明け方に千葉市付近に上陸し、千葉県や神奈川県で構造物の倒壊、倒木、停電等の被害を及ぼし、午前中の首都圏の鉄道網もほとんどが運休となりました。

台風は 4 時間ほどで関東の東海上へ抜けましたが、台風一過の関東では各地で 35～6 度の猛暑日となる一方、千葉県内では 11 日になっても大規模停電が回復せずエアコンも水道も無い猛暑日を過ごさざるを得ない状態が続いています。

首都圏は比較的自然災害に見舞われることが少なかったのですが、いざ大雪に見舞われたり台風に直撃されたりすると、道路網や鉄道網のみならず電気水道という基礎インフラが意外と脆弱であることに驚かされます。

一方で、我が家の近くの百日紅（さるすべり）の濃い紅紫の花は、台風の強風にも耐え夏の始まりから三か月以上も咲き続けています。
100 日ほど花が咲くので「百日紅」との名があることは判り易いのですが、ツルツルの樹皮から「猿も滑って登れない」程と想像して「さるすべり」と読むとは、日本語の難しさの一端を表しているようですね。

難しい漢字が充てられている植物には他にどのようなものがあるのか調べてみたら、万年青（おもと）、仙人掌（さぼてん）、燕子花（かきつばた）、満天星（どうだんつつじ）等がありました。それぞれどのような植物かお判りになりますか？

さて、今月の月刊アフリカニュースでは、先月末に行われた TICAD7 の特集を組んでいますが、猛暑が峠を越えた感のあった夏の暮れの三日間、みなとみらい駅の周辺は、アフリカ一色に覆われていました。

全体会合の他に TICAD 事務局に登録された公式サイドイベントが 160 以上あり、複数の会場で同時開催されている夫々のイベントを選択することが難しい状況でした。

一つのイベントでアフリカでの企業活動を経験された日本人の若者の苦労話を聞く機会がありましたが、それぞれの成功話や苦労話よりも、若者が目先の儲けに目を眩ますことなく、忍耐強く長期的な視点に立ってアフリカとの共存に向けて努力していた事実を知り、驚くと同時に大変嬉しく感激しました。

今回の TICAD 会合を通じて、アフリカの人々が互いの利己を尊重し互いが適正に利することを理解して、アフリカと共存共栄しようと考え手を差し伸べる日本人と切磋琢磨していくことが出来ないものかと考えていた時、建国の父、アフリカ解放の象徴でありながら独裁者の烙印も押されたムガベ大統領死去の報がもたらされました。

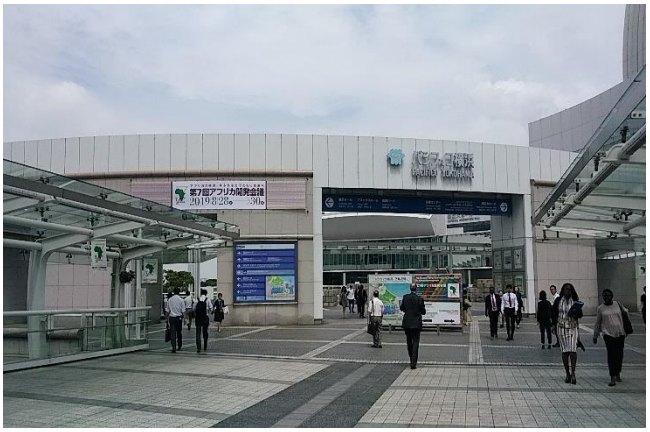
一つの時代は確かにうつろうのでしょう。

編集委員長　　福田　米蔵

特集－１

編集委員　　髙田　正典

－8 月 28～30 日開催／2019 TICAD 7 首脳会合（パシフィコ横浜）－



１．はじめに：

月刊アフリカニュース編集委員会は、昨年 10 月 6･7 日に開催された 2018 TICAD 閣僚会合を取材し、月刊アフリカニュース No.72（昨年 10 月配信）に特集として掲載しましたが、今般、横浜で開催された TICAD 7 首脳会合についても、外務省 TICAD 事務局のご厚意により、取材枠にて参加しましたので、以下のとおり報告します。

２．TICAD 7 首脳会合：

みなとみらい駅から会場周辺はアフリカ一色

最期のフロンティアとされるアフリカは、東南アジアに続く次なる成長地域として、欧米諸国、中国に加え、インド、韓国、トルコ、中東湾岸諸国、アセアン諸国、更にはロシアなど、多くの国々がアフリカ支援に乗り出すなど、各国によるアフリカ進出の動きが活発になっています。

そうした状況下、支援の老舗的な存在感を示す TICAD 7 首脳会合が以下のテーマに基づき、アフリカ 53 か国の代表が参加（内 42 か国から首脳級）し、開催されました。

【TICAD 7 首脳会合テーマ】
- **イノベーションと民間セクターの関与を通じた経済構造転換の促進及びビジネス環境の改善**
- **持続可能かつ強靭な社会の深化**
- **平和と安定の強化**

（アフリカ自身による前向きな動きを後押し）

３．初日（8 月 28 日）の日程：

【写真撮影】
【開会式】　安倍総理大臣による開会宣言
【全体会合－１】
基調演説　・安倍総理大臣　・AU 議長　エジプト・シーシ大統領
・グテレス国連事務総長　・ムーサ・ファキ AU 委員長
・シュタイナーUNDP 総裁　・ル・ウェルーIFC 長官
【全体会合－２】
議題：イノベーションと民間セクターの関与を通じた経済構造転換の促進及びビジネス環境の改善
【総理・横浜市長共催歓迎レセプション】

【全体会合－1】

安倍総理は基調演説で、この3年で日本からアフリカへの民間投資が200億ドルに達した事、貿易保険で10割カバーする仕組み作りなど、日本企業のアフリカ進出に、あらん限りの策を講じると約束されました。民間の活躍ぶりについては、仲本千津さん他数名の方々を、本会合の席上で紹介されました。仲本氏は、ウガンダで、カバン製作工房を運営され、そこにはシングルマザーや、子供の時に兵士だった人々も働いているようです。

更に、安倍総理は、ABEイニシアティブで産業を担う人材として育った若者が5年間で2700人近くに達した事、南スーダンでの2万個を上回る地雷・不発弾の撤去を行った事、アフリカと日本を結ぶインド太平洋を法の支配が貫く国際公共財として大切に守り、水と海を慈しむ国民として「ブルーエコノミー」構想に意味ある貢献をする事などを話され、スピーチの最後に、アフリカの繁栄を願って打ち出すアイデアとして初めて、日本の「New Approach for Peace and Stability in Africa」（NAPSA）について、話されました。

NAPSAは、AUや、地域経済共同体と協力し、紛争によってネイション・ビルディングが後戻りせぬよう、司法や行政、立法の制度を確かなものとするお手伝いであり、日本政府はこれまで、アフリカ39国から676人にのぼる警察官、検察官、裁判官を受け入れ、東京に「国連アジア極東犯罪防止研修所」を設立しました。こうした実績に誇りを託し、NAPSAに取りかかろうとする日本を突き動かすのは、TICADの精神そのものであるとして、基調演説を締めくくりました。

【全体会合－２】

議長代理を務めた麻生副総理は、アフリカ大陸自由貿易圏設立協定（AfCFTA）の5月発効について、歓迎の意を示し、特に科学、技術、イノベーションの分野での人材開発を高める必要がある旨、述べられました。

アフリカ首脳からは、①技術、ブルーエコノミー、イノベーションを活用した産業多角化への後押し、②若者の人材育成や質の高いインフラの推進、③ガバナンスを含む投資環境・制度の改善、④農業の付加価値の向上、⑤投資促進のための日・アフリカ間の官民対話の更なる強化、⑥平和と安定、法の統治の重要性について発言ありました。

また、ゴー・チョクトン・シンガポール名誉上級相から、同国における発展の紹介があり、経済社会開発には一貫した政策が継承されることが重要であるとの発言があり、アジアの経験を生かしたアフリカの持続可能な経済成長への期待が表明されました。

【総理・横浜市長共催歓迎レセプション】

同レセプションには、各国首脳各国際機関の代表者、日本側関係者など700名が参加された模様です。冒頭、安倍総理大臣は、開港160周年の横浜でのTICADは今回で3回目となること、TICADを契機に横浜の企業がアフリカに進出していること、２日目以降の会合への期待が述べられました。

林横浜市長は、今後も横浜市はアフリカと手を携えていく旨述べられ、アフリカと日本の子供たちにも捧げたいとして、乾杯のご発声をされました。

レセプションには、TICAD キャラ特使「ハローキティ」が登場した他、勇壮な和太鼓の演奏及び MIYAVI・UNHCR 親善大使による歌唱・演奏が行われました。

TICAD 事務局の方に伺ったところ、「地産地消」の観点から神奈川県産の食材が使用され、更に福島県、宮城県、岩手県などの被災地産食材も使用され、参加者の多様な宗教、趣向を考慮し、ベジタリアン食、ハラール食のコーナーも用意されました。

５．２日目（8 月 29 日）の日程について：

【全体会合－３】
議題：官民ビジネス対話　・日本の民間セクターからの要望とその努力
・アフリカの民間セクターからの要望と期待
・日本政府による努力
・アフリカ各国による努力と日本への期待
【全体会合－４】
議題：持続可能かつ強靭な社会の進化
【テーマ別会合】（１）科学・技術・イノベーション　（２）人材育成・教育
（３）農業　（４）防災・気候変動　（５）ブルーエコノミー
【総理主催晩餐会】

【全体会合－３】

この会合は、TICAD 史上初めて民間企業を公式なパートナーとして位置づけ、アフリカの官民と、日本の官民が直接対話する場となりました。登録ベースで、日本側民間企業・団体 300 社、アフリカ及び第三国の民間企業 100 社が出席する総勢 2500 名の会合となりました。冒頭、安倍総理から、相互のビジネス関係強化を目的とした「アフリカビジネス協議会」発足の紹介があり、日本企業や若手起業家が、アフリカに進出することを政府が後押ししていく旨、表明されました。また、シーシ AU 議長からは、アフリカの持続可能な開発のためには、民間部門とのパートナーシップが重要であるとの指摘があり、更にアフリカ側参加者からは、日本による人材育成への強い期待も示されました。

【全体会合－４】

「持続可能で強靭な社会の深化」の柱の下、包摂的かつ持続的な経済成長や人間の安全保障の基盤として不可欠な保健の課題解決に向けた、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ推進が確認された会合でした。また、保健システム強化、能力開発の強化、感染症・非感染性疾患対策、母子保健、栄養改善及び水・衛生など、効果的な施策が議論されました。更に、科学技術イノベーション（STI）、防災と気候変動、人材育成と教育及び女性や若者のエンパワーメントの分野の取組についても議論が行われました。

アフリカ側共同議長代理を務めたサル・セネガル大統領からは、日本とアフリカ諸国、国際機関、市民社会等との様々なレベルでのパートナーシップを強化していくことへの呼びかけがあり、アフリカ各国、国際機関、市民社会等からも TICAD を通じ、保健・社会分野への取組に対する強い期待が表明されました。

【総理主催晩餐会】

着座形式にて開催され、安倍総理は、TICAD VI からの３年間、アフリカが大きく前進し、実感としてその輝きが増している旨、述べられました。

晩餐会では、日本各地の特産品を活かし、和のエッセンスを取り入れた洋食が用意され、各料理に合った全国の銘酒も用意されました。

こうした「おもてなし」の心は、専門家によって構成されたメニュー検討委員会によるもので、参加者の多様な宗教、嗜好を考慮し、ベジタリアン食やハラール食を含む複数のメニューが用意された模様です。

６．最終日（8 月 30 日）の日程について：

【全体会合－５】
議題：平和と安定の強化
【全体会合－６】
議題：５つのテーマ別会合の報告
【閉会式】
安倍総理大臣スピーチ　エジプト大統領・シーシ AU 議長スピーチ
【共同記者会見】

【全体会合－５】

河野外務大臣から、「アフリカの平和と安定に向けた新たなアプローチ（NAPSA）」の具体的な内容として、制度構築支援やアフリカ主導の平和支援活動の後押し、紛争予防・「平和の持続」に向けた制度構築・人作り支援を行うことの表明がありました。

アフリカ各国首脳等からは、平和と安定は持続的な経済成長に不可欠、テロや紛争を解決するためにアフリカは、NAPSA と連携してアフリカの平和と安定及び開発を実現していきたいとの発言がありました。

【全体会合－６】

前日のテーマ別会合の結果報告があり、河野外務大臣から、ブルーエコノミーの報告がありました。

また本会合の総括として、麻生副総理から「人、技術、イノベーション」による前向きな進展に、日本は TICAD と寄り添っていきたいとの発言がありました。

【閉会式】

前回に比べて２倍強の参加者となった今回の首脳会合、安倍・シーシ両共同議長から、閉会の辞と、成果文書として、**「横浜宣言　2019」**を採択し、付属文書として**「横浜行動計画 2019」**が発表されました。

７．最後に

（展示会場 A）国際メディアセンター

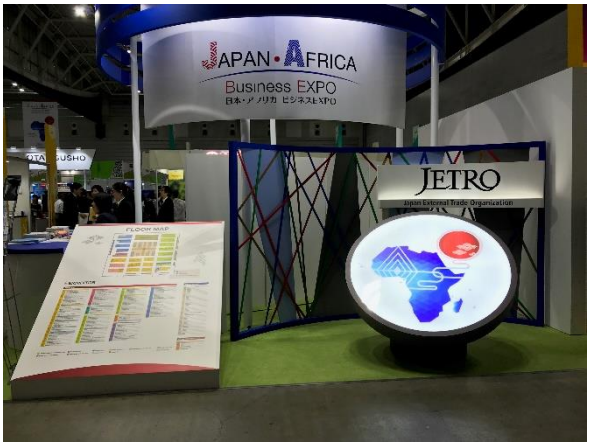
外務省 TICAD 事務局は 8 月 27 日から 4 日間、プレス関係者用に、展示会場Ａを国際メディアセンターとして提供下さいました。展示会場Ａは、本会議場のあるパシフィコ横浜や、多くのサイドイベントが行われた展示会場Ｂ及びＣ、そして各国、各企業の展示会場Ｄへのアクセスが便利で、各国プレスとゆっくり自由に意見交換ができました。　そして、アフリカ数か国のプレスと接触する機会を得ましたが、彼ら共通の関心事は、突き詰めれば、「日本によるアフリカ支援について、他のドナー国（特に中国）との違いは何か」という点であったように思われました。

共同記者会見でも海外プレスから、そうした質問があり、安倍総理からは、①アフリカはともに成長する win-win の関係にある大切なパートナー、②返済過剰にならぬよう、透明性、債務返済の持続可能性、健全性が重要である事、③日本は、公的債務管理についてのアドバイザーを派遣する用意がある事、④日本らしさを活かしたアフリカ支援を進めるといった考えが示され、次回 2022 年の TICAD 8 は、アフリカの地で開催されることを心待ちにしている、と締めくくりました。

【参考資料①、②、③（以下）及び、サイドイベント情報（次葉）】

①横浜宣言 2019：
https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/ticad7/pdf/yokohama_declaration_ja.pdf
②横浜宣言 2019 の概要（要約）：
https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/ticad7/pdf/yokohama_declaration_gaiyou_ja.pdf
③横浜行動計画 2019（横浜宣言 2019 の実施行動）
https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/ticad7/pdf/yokohama_action_plan_ja.pdf

TICAD 7　サイドイベント



UHC 推進への協業：顧みられない病気のための医療技術イノベーションとアクセス促進

武見敬三参議院議員/WHO UHC 親善大使

アヒム・シュタイナー　UNDP 総裁

左から

クウェク・アジマン＝マーヌ
ガーナ保健大臣、
大浦　佳世理　GHIT Fund CEO、
寺島　薫　富士フイルム執行役員、
アミラ・エルファディル　AU 社会
問題担当コミッショナー

アライアンス・フォーラム - アフリカ・パートナーシップ会議

テーマ：　豊かな未来へ向けたアフリカと日本のパートナーシップ

基調講演：(左上)
原　丈人　アライアンス・フォーラム財団代表理事

パネリスト：(右上)
左から加藤勇治　マテリアルワークス株式会社代表取締役、笠井優雅 CEO, Africa Accounting Advisory、
阿子島文子　ロート製薬　広報・CSV 推進部、
山中哲男　株式会社トイトマ代表取締役会長

閉会の辞：
福田米藏　同財団理事（元駐ジンバブエ大使）

特集－２

編集委員　布目　正浩

TICAD 7 サイドイベント情報
STS フォーラムでアフリカ協会・大島理事長がパネル討論の議長に

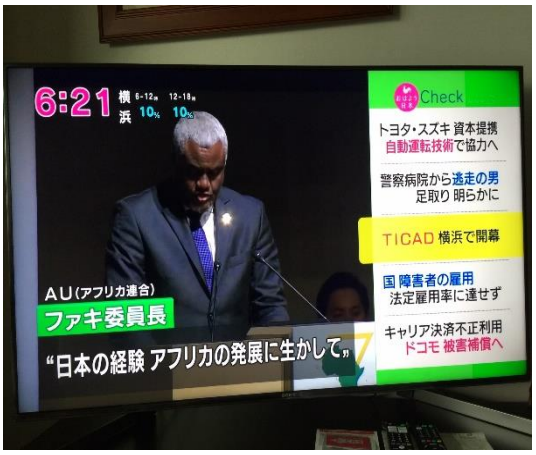
科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム、通称 STS （Science, Technology and Innovation in Society）フォーラムは、日本・アフリカ協力に関する特別セッション「STS フォーラム 科学技術とイノベーションにおける日ーアフリカ連携強化に向けたワークショップ」を、TICAD 7 のサイドイベントとして、8 月 28 日に開催しました。そして、人材育成をテーマとしたパネルディスカッションでは、弊アフリカ協会の大島賢三理事長が議長を務めました。

STS フォーラムは、安倍総理が名誉会長を務め、世界をリードする研究機関（理研、ワイツマン研究所等）や、各国の研究者（日本、イスラエル、台湾、英国、米国等のノーベル賞受賞者 11 名を含む)、そして政府機関にて構成されているフォーラムです。

安倍総理及び、南アフリカ共和国ラマポーザ大統領の臨席のもと、日・アフリカ諸国の政府、国際協力機関、大学、ビジネス界から 200 名以上が参加し、4 時間に亘り活発な討論が行われました。

人材育成パネルに於いては、アフリカ諸国の関係者から、ABE イニシアティブの規模の拡大への期待表明がなされ、JICA 代表からは、拡大方針の説明がなされました。

質的には日本で学んだ専門知識を母国で生かす機会に乏しいことが複数の就学経験者から吐露され、コース終了後のフォローアップの必要性が認識され、JICA として具体的に検討したい旨の意図表明もなされました。



以上

在外公館ニュース　　＝今月の読みどころ＝(8/16～9/15 公開月報)

編集委員長　福田　米藏

アルジェリア政治・経済月例報告　（７月）

１．国営産業の生産増加

1 日、国家統計局(ONS)は、2019 年第 1 四半期の国営産業部門の生産が、前年同期比で 4%増と発表。金属、機械及び電力部門の中間財(+ 18.9%)，機械部門の資本財(+25.7%)等が伸び，特に、車両生産(+ 66.2%)、製鉄・鋳鉄・製鋼(+148.3%)が、大幅に増加。

２．消費者物価

21 日、国家統計局(ONS)は、2019 年 6 月までの 12 ヶ月間のアルジェリアの消費物価の平均上昇率を、+3.1%と発表。

３．アフリカ大陸自由貿易圏

7 日、ベドゥイ首相は、第 12 回 AU 臨時総会に出席し、「アルジェリアはアフリカ大陸自由貿易圏(AfCFTA)協定の批准手続の開始を決定した。この約束は、アルジェリアによるアフリカ大陸の利益及び、その巨大なプロジェクトの実現のための恒常的なコミットメントを改めて示すものである」と述べた。

４．新国民議会議長

10 日、ナハダ・アダーラ・ビナー同盟(15 議席を有す第 5 会派)のスレイマーン・シェニーン議員が、ブシャーレブ国民議会議長の後任として選出された。同同盟のベンヘラフ議員は、「本日、野党は、旧与党・野党の大部分の議員 による合意後、国民議会議長職を勝ち取り、変革を求める民衆デモの声を傾聴する必要性を納得させること及び、ブーテフリカ大統領 5 選と、汚職に走った旧システム象徴者の排除に成功した」旨、報道機関に述べた。

https://www.dz.emb-japan.go.jp/jp/news2019.07.pdf

アルジェリア政治・経済月例報告（８月）

１．インターネット利用者

27 日、エクスプレシオン紙等は、世銀が発表した各国の人口に占めるインターネット利用者の割合の統計を引用し、アルジェリアがアフリカ大陸の中で、9 位(48%)であった旨、報道。数値は 2017 年のもので、モロッコが 1 位 (62%)、チュニジアは南アフリカ、ジブチ、モーリシャスと並んで 4 位(56%)。

２．小麦の輸入

21 日、ジェラブ商業相は、政府が補助金の不正受給を行う製粉業者に対し、種々の措置を執ったことにより、今年は小麦の輸入の必要がなくなる可能性がある旨発言。

３．貿易統計

12 日、関税庁が、2019 年上半期の貿易統計を発表。輸出が 189 億 60 00 万ドル(前年同期比-6.57%)、輸入は 221 億 4000 万ドル(同- 4.30%)で、貿易赤字は 31 億 8000 万ドル(2018 年同期:28 億 4000 万ドル)であった。

４．対話主導パネル

20 日、ユネス対話主導パネル調整役は、現下の危機解決に向けた一環として初めての政党との会談となるベライド未来戦線党首との協議を行った。同党首は、会談後の共同記者会見にて、独立選挙監視高等機構の設立による現下の危機からの脱出に向けた戦略の策定に寄与することに同意したことを明らかにし、全ての政党からの意見を聴取することが危機解決に不可欠とし、一部政党の周縁化を警告した。

https://www.dz.emb-japan.go.jp/jp/news2019.08.pdf

ウガンダ月報（７月）

１．ウガンダ産砂糖

17 日付、当地タンザニア大使館発ウガンダ外務省宛書簡によると，タンザニア企業に対して、ウガンダ産砂糖の輸入許可が付与された。2018 年 7 月以来、ウガンダ企業が EAC 域外産の砂糖を再輸出しているとして、タンザニアはウガンダ産の砂糖を禁輸していた。

同年 12 月 のチャンバッデ貿易産業大臣と、カクンダ・タンザニア産業貿易大臣の会談の後、ウガンダ産砂糖に対する禁輸措置は撤廃されていたが、その後約 6 か月にわたり、輸出許可は付与されていなかった。

２．タンザニアからの石油パイプライン

10 日、ムリマ(Aziz Mlima)駐ウガンダ・タンザニア大使は、「我々は、石油パイプラインの建設を開始する準備が出来ている。我々は、タンガ港に石油タンクのための地所を確保しており、石油パイプラインに関する活動を、協調・監督するための連絡事務所を立ち上げるための地所をウガンダに与えている。」と述べた。

直径 24 インチのパイプラインは、30 億米ドルを要すると試算されており、2022 年の完工の暁には、日量 21 万 6000 バレルの原油の輸出が、可能になるとみられる。

３．ビクトリア湖の水運

13 日、ムセベニ大統領は、マグフリ・タンザニア大統領の故郷であるタンザニア北東部のチャト(Chato)を非公式訪問した。

二国間会談を行った両首脳は、東アフリカにおける物流を促進するためのビクトリア湖の水運の活用など、両国の経済関係について議論した。

https://www.ug.emb-japan.go.jp/files/000507927.pdf

コンゴ(民)月例報告 政治関連（８月）

１．新内閣名簿

26 日未明、イルンガ首相は、連立政権の新内閣名簿(大使館注:最終的に 66 ポスト)を発表した。これは、チセケディ大統領の就任から 7 か月後となる。

新内閣の男女比は男性が 83%、女性が 17%である。

２．チセケディ政権の優先事項

20 日、チセケディ大統領は、中央コンゴ州マタディ市で開催された第 1 回電力フォーラムで、チセケディ政権における経済の優先事項は、電力へのアクセス拡大であると述べた。当国における電 力のアクセスは現在 8%程度である。

３．国境閉鎖

1 日、ルワンダは、同日午前から数時間、ルワンダのギセニ市とコンゴ(民)のゴマ市

を結ぶ両国の国境を閉鎖した。これに先立ち、ゴマ市では3例目のエボラ出血熱感染例が、確定していた。

４．アンゴラ、ウガンダ、ルワンダ、コンゴ(共)首脳会議

21日、チセケディ大統領は、ロウレンソ・アンゴラ大統領の招きにより、ムセベニ・ウガンダ大統領、カガメ・ルワンダ大統領及び、今回加わったサス・ンゲソ・コンゴ(共)大統領と共に、ルアンダでの第2回ミニ首脳会議に参加し、地域の安定について協議した。

また同首脳会議では、ウガンダと ルワンダの関係修復に関するMoUが署名された。

https://www.rdc.emb-japan.go.jp/files/000513905.pdf

ザンビアの経済概況・月報（７月）

１．外国投資

ザンビアは、2019年上半期において、経済の様々なセクターに対して53億米ドル相当の投資を受けた。最大の投資先は、34億米ドル相当の投資を受けたエネルギーセクターであった。マタムワ ンディ・ザンビア開発庁(ZDA)長官代理は、同セクターへの投資は、2019年上半期に予定されていた総投資額の65% を占めると述べた。

２．アフリカ大陸自由貿易圏

ムワンバ在エチオピア・ザンビア大使は、ムチャンガ・アフリカ連合・貿易産業コミッショナーを表敬した際に、政府及び民間セクター双方による関係者協議の結果が前向きなものであったことから、ザンビアは、今年8月の国会において、アフリカ大陸自由貿易圏を批准するであろうと述べた。

３．対外債務

ンガンドゥ財務大臣は、ルサカで開催された第2四半期経済状況ブリーフィングにおいて、ザンビアの対外債務は、2019年3月の101億8千万米ドルから、2019年6月には、102億3千万米ドルに増加したと述べた。

https://www.zm.emb-japan.go.jp/files/000507211.pdf

セネガル月報（７月）

１．国民対話

3日、サル大統領は、大統領令に署名し、「国民対話」の枠組みを決定した。サニャ委員長他で構成される国民対話実行委員会は、国民対話を運営し、協議の結果に基づき提案書を作成する。同委員会には、政治、経済・社会、天然資源、環境・生活環境及び平和と安定に関する5つの分科会が設けられる。

２．政治対話

16日「政治対話」にて、2019年12月1日に予定されている地方選挙を前に、山積みする課題に鑑み、同選挙を延期する必要性につき、合意がなされた。他方、民主党(PDS)関係者は、地方選挙の予定通りの実施を求めており、本件合意を非難し、PDSをはじめとする多くの野党が、政治対話に参加しておらず、対話に参加している一部の野党が賛成したからといって、そのことは必ずしも野党全体の総意ではない旨、述べた。

３．世銀「アフリカ国別政策・制度評価」

31 日、世銀は、2018 年「アフリカ国別政策・制度評価」を発表し、セネガルは、昨年の第 2 位から順位を一つ下げて、ケニア、ウガンダと並んで第 3 位となった。

1 位はルワンダ、2 位はカーボベルデ。

４．中所得国に認定

1 日、世銀は、セネガルの 2018 年の一人当たりの国民総所得が 1410 ドルに達し、基準額の 1026 ドルを上回ったことから、同国を中所得国に認定した。

５．新通貨「ECO」

9 日、ロー西アフリカ諸国中央銀行(BCEAO)総裁は、CFA フランが、新通貨「ECO」に置き換わることに関して、加盟国が通貨統合の基準を満たさない限り、新しい通貨の運用を開始できない旨、述べた。

また，同総裁は、8 か国を対象とする CFA フランに比べ、15 か国を対象とする ECO はそれだけ影響力も大きく、インフレを引き起こす可能性がある旨、言及した。

https://www.sn.emb-japan.go.jp/files/000509052.pdf

ナミビア月報（８月）

１．大統領選候補

与党 SWAPO 長老評議会(SPEC:Swapo Party Elders Council)の中央委員会は、3 日、今年の大統領選候補として、ハーゲ・ガインゴブ現大統領を候補者とすることを決定した。この決定は、一部与党内議員が、独立候補を支持する野望を有している最中になされた。

２．タウンホールミーティング

15 日、ハーゲ・ガインゴブ大統領は、干ばつ対策の進捗状況をレビューし、その対策実施の障害となっているものを抽出すること等を目的として、各州ごとに実施してきたタウンホールミーティングを終了した。

３．中国人労働者

カンジョゼ経済計画大臣兼国家計画委員長は、中国政府に対して、ナミビア国内のインフラ・プロジェクトにおける中国人労働者の使用は、最小限にするよう要請した。

同大臣のこの発言は、中国大使館が主催した野心的な「一帯一路構想」(BRI: Belt and Road Initiative)に関するメディアとの会合において、なされたものである。

４．象牙の取引

17 日から 28 日まで、スイスに於いて開催される第 18 回 多国間絶滅危惧野生動植物条約(CITES)会議において、ナミビア政府は、象の狩猟禁止を解除すべきであるとの立場をとる意向である。

環境・観光省の Muyunda 広報担当官は、5 月上旬に、ボツワナにて開催されたカサネ・エレファントサミットにおいて表明した、象牙の取引禁止を解除し、象の持続可能な狩猟を許可すべきであるとするナミビア政府の立場に変更は無いと、再確認した。

５．経済成長サミット

7 月 31 日及び 8 月 1 日の 2 日間、2019 年経済成長サミットが開催され、7 月 31 日の開会式には、ガインゴブ大統領が出席し、冒頭挨拶を行った。1 日、大統領の諮問機関である経済に関するハイレベルパネルの議長である Gawagab 氏より、これまでに 200 億ナミビアドルが、確実な投資として確認されている旨、発表された。

https://www.na.emb-japan.go.jp/files/000514071.pdf

ベナン月報（６月）

１．アフリカン・バンカー・アワード

11 日、赤道ギニアの首都マラボで開催されている「アフリカン・バンカー・アワード 2019」において、ワダニ経済・財務大臣は、アフリカ諸国の最優秀財務大臣に選ばれた。

２．IMF の融資

21 日、IMF の理事会は、ベナンに対する 2210 万 US ドルの融資を決定した。

ベナン政府の、マクロ経済及び財政運営の良好なパフォーマンスによるもの。

３．一帯一路

24・25 日、北京で開催された FOCAC フォローアップ会合に、アベノンシ外務・協力相が参加し、「一帯一路」協力覚書に署名した。

https://www.bj.emb-japan.go.jp/files/000506330.pdf

ベナン月報（７月）

１．野党との「協議会合」

15 日、タロン大統領は、自身が 5 月 20 日に提唱した野党との直接対話を行うべく、「協議会合」を開催し、各政党代表者 11 名を招待して大統領府で会談した。

アザナイ元国防相率いる野党 RE 党は、招待を受けたものの、会合を欠席した。

２．アフリカ大陸自由貿易協定

7 日、ニアメにて開催された第 12 回 AU 臨時首脳会議において、アフリカ大陸自由貿易協定(AfCFTA)に、ベナン、ナイジェリアが署名した。ブハリ・ナイジェリア大統領と共にタロン大統領が署名を行ったことで、ベナンは第 54 番目の加盟国となった。

３．アジア・インフラ投資銀行

13 日、ルクセンブルグで開催されたアジア・インフラ投資銀行(AIIB)第 4 回年次会合に、ワダニ 経済・財務相率いるベナン代表団が参加し、ベナンは、ジブチ及びルワンダとともに、加盟を承認され、加盟国の数は 100 に到達した。

https://www.bj.emb-japan.go.jp/files/000508972.pdf

ボツワナ共和国月報（７月）

１．投資・通商産業省及び運輸通信省の分割予定

5 日、マシシ大統領は、投資・通商産業省及び運輸通信省を、各々分割する予定について、言及した。同大統領は、投資・通商産業省を、投資・貿易と、中小企業にそれぞれ焦点を当てる省に分割し、今年度会計で検討を開始し、2020 年 4 月までに完了させる旨、発言した。また、同大統領は、運輸通信省から分割する通信省が、大統領府の下に設置されることとなるだろうと述べた。

２．ナミビア・ボツワナとの行き来にパスポートが不要に

27 日、第 45 回ハンチ農業ショーに出席したマシシ大統領は、近い将来、ナミビアとボツワナの両国民が各国に旅行する際に、パスポートを必要とせず、身分証明書のみで行き来できるようになる旨、発言した。

同大統領によると、両国の政府職員により、じきに正式に合意する由。

３．国産牛乳の不足

ホヤ高等教育・研究・科学技術副大臣によると、年間の牛乳の国内需要は、6500 万リットルであるものの、ボツワナは国内で、720 万リットルの牛乳しか生産できていない。

同副大臣は、世界的に乳製品生産企業が、雇用と収入創出の主要な源であり、農家が酪農牛を飼育し、ボツワナが、国際市場と競合できるような技術を使うことができれば、問題は解決する旨発言した。

４．ボツワナ銀行、基本割引率・基準貸付利率を 5.0%に維持

6 月 27 日、ボツワナ銀行は、金融政策委員会を開催し、インフレ率が政府目標の 3～6%内よりも低く、価格の安定性にかかる見通しが、ポジティブであることを受け、基本割引率・基準貸付利率（注:従来の公定歩合)を、5.0%に維持する決定を公表した。

https://www.botswana.emb-japan.go.jp/files/000508488.pdf

モザンビーク共和国月報（６月）

１．米国・アフリカ・ビジネスサミットの開催

19 日から 21 日にかけて、第 12 回米国・アフリカ・ビジネスサミットが、マプト市にて、開催された。同会議ではモザンビークの加工業、アグリビジネス、交通インフラや電力などへの投資がテーマとなったほか，ジンバブエとの二国間航空協定，スタンダードバンクの投資家支援策などが発表された。

２．大統領選挙〔ニュシ大統領がフレリモ党の大統領選候補者として正式登録〕

10 月 15 日に実施される大統領選に際し、6 日、フレリモ党は、ニュシ大統領を候補者として擁立する旨の書類を、憲法討議会に提出した。

ニュシ大統領は、2 期目 の任期をかけて、選挙戦に臨む。

３．和平プロセス〔レナモ党内紛〕

最大野党であるレナモは、分裂の状況にある。自称レナモ軍大将のシジンガ氏は、永続的な和平実現に向けて、与党フレリモとの間で進められている交渉を無視すると脅迫した。

４．非開示債務問題:Ematum 社債務の無効判決

4 日、当国憲法評議会は、Ematum 社債務及び 2013 年の政府保証債務全ての無効判決を下した。本判決により、計 20 億米ドルの 3 つの非開示債務全てが無効、かつ、政府保証が違法となる。

https://www.mz.emb-japan.go.jp/files/000515165.pdf

モーリタニア月例報告(7 月及び 8 月)

１．大統領選挙:憲法評議会による最終結果の発表

7 月 1 日 12 時過ぎ、憲法評議会は、有効投票数の過半数を上回る 52%の得票を獲得したガズワニ候補(与党)が、第 1 回投票で当選したとの最終結果を発表した。

２．2019 年第 1 四半期の貿易相手国の発表

モーリタニア国立統計局の報告によると、2019 年の第 1 四半期におけるモーリタニアの、輸出相手国の第一位は中国であり、国内の全輸出額の 30.8%を占める。

対中輸出額のうち、14%が水産物、残り、は鉄や銅等の鉱物資源。

３．財務大臣及びモーリタニア中央銀行総裁による共同記者会見

8 月 26 日、デフビ財務大臣及びダヒ・モーリタニア中央銀行総裁が、共同記者会見を行った。同共同会見の内容は以下のとおり。

１）外貨準備高は、10 億 4，825 万 8 千ドル。輸入額 6 か月分の高い水準にあり、モーリタニアの国家財政は良好である。

２）対外債務残高は約 40 億ドル。定期返済の見通しは明るく、懸念すべき水準にはない。

３）GDP は、50 億ドルに上る。

https://www.mr.emb-japan.go.jp/files/000514599.pdf

ルワンダ月報（７月）

１．国際通貨基金(IMF)によるルワンダ経済動向の歓迎

ラガニ IMF 理事(アフリカ第 2 グループ)は、ンギレンヘ首相及びンダギジマナ財務・計画大臣と会談し、ルワンダの経済動向、特に、2019/20 年予算において、国内財源を 68.3%に増したことを歓迎した。

２．ジェノサイド解放 25 周年記念式典

4 日、ルワンダは、ジェノサイド解放 25 周年記念式典を開催し、アフリカ 6 か国の大統領他が、出席した。

３．放射性物質運搬に関する研修

22～26 日、ルワンダ公益事業規制局(RURA)は、IAEA とともに、放射性物質運搬に関する研修を、キガリで開催した。同研修には、アフリカ 14 か国から 25 人が参加し、IAEA の安全な放射性物質運搬規約及びコンプライアンスの遵守について学んだ。

ルワンダは、5 年以内に原子力科学技術センター(CNST)を開設することを予定している。

４．小中学校の新教室建設

ルワンダ政府は、120 億ルワンダ・フランを投じて、小中学校に新たに、1100 の教室及び 1000 戸以上のトイレを建設すると発表した。

これにより、どの生徒も学校まで徒歩 2 キロメートル以内で、アクセスできる。

https://www.rw.emb-japan.go.jp/files/000511135.pdf

（注釈）

＊通貨換算 URL：http://www.xe.com/ja/currencyconverter/

＊記載した情報は、在アフリカ諸国日本大使館 HP と AB－NET から収集したものです。

特別ニュース

顧　問　　堀内　伸介

以下項目の No.1、4、18 は、ニュースというよりは評論である。
少々、長文だが、興味深い評論といえる。

１．「アフリカ全般／アフリカ－日本：アフリカ大陸自由貿易圏の成立と相互の協力」

“Japan-Africa cooperation: world’s best kept secret and Africa’s game-changer”

Pambazuka、Odomaro Mubangizi and Vick L. Ssali、７月２３日

https://www.pambazuka.org/global-south/japan-africa-cooperation-world%E2%80%99s-best-kept-secret-and-africa%E2%80%99s-game-changer

アフリカ大陸自由貿易圏協定が批准されれば、アフリカにとって新しい成長の可能性が生まれる。そこで、今まで「知られていないアフリカと日本の協力」を拡大することによって、新たな可能性と発展の機会が拡大する。アフリカと日本との協力を強調する目的で書かれた評論であり、著者達の好意的な意図は理解できるが、今までのわが国の協力に対して、低い評価が与えられているようにも思われる。

２．「アフリカ全般／アフリカと SDGｓ：現状では期限までの達成は難しいとの予測」

“Africa and the Sustainable Development Goals: A long way to go”

Brookings、Belay Begashaw、７月２９日

https://www.brookings.edu/blog/africa-in-focus/2019/07/29/africa-and-the-sustainable-development-goals-a-long-way-to-go/

SDGs（持続可能な開発のための 2030 年アジェンダ）も、後 11 年半を残すのみとなった。目標の達成を見てみると、目標 5：ジェンダーの平等、目標 13：気候変動対策、目標 15：陸域生態系の保護については、計画通り進行している。

しかし、他の目標、特に、貧困、栄養失調、母親死亡率、学校登録者数、電力へのアクセス、安全な飲料水へのアクセスについては、北アフリカ地域を除いて、アフリカ諸国の目標達成は不可能と予測される。

アフリカの成長は目標、年率 7%、および長期的な記録にも達していない。

３．「アフリカ全般：AGOA、米国とアフリカの貿易の礎石」

“Ready, Steady, AGOA Comes to Abidjan!”

Allafrica、Esther Rose、８月５日

https://allafrica.com/stories/201908050630.html

The African Growth and Opportunity Act（AGOA）は、2000 年以降、米国とサブサハラ・アフリカ諸国との貿易の基礎となっている。アビジャンで、39 ヶ国の参加を得て、AGOA 会議が開催されている。「米国とアフリカ諸国との貿易と投資」がテーマであり、現在までに開発した新たな手法をより効果的に利用すること等が議論される。

更に、女性、若者、市民社会と民間部門の経済発展への貢献等が議論される。

４．「アフリカ全般：植民地行政は部族を行政単位として創り、そのレガシーが残る」

“Colonialists didn’t fail to root out Africa’s tribal politics.
They created it “
African Arguments、Kamau Muiga、８月６日
https://africanarguments.org/2019/08/06/colonialism-tribal-ethnic-politics-africa/

2017 年のケニアの大統領選挙を見ると、キクユ族であるケニアッタは、キクユ地域の殆ど全部の票を、競争候補のオディンガは、ルオ族地域の 90%以上の票を獲得している。この例から見ても、アフリカ社会は未だ「モダン社会」に脱皮していない。

このようアフリカ行政単位としての部族を創ったのは、植民地行政である。

部族を社会、経済、政治の単位としたその影響が未だ続いている。

５．「アフリカ全般：地下水量は気候変動にあまり影響されない」

“Groundwater reserves in Africa may be more resilient to climate change than first thought”
The Conversation、Mark O. Cuthbert&Richard Taylor、８月８日
https://theconversation.com/groundwater-reserves-in-africa-may-be-more-resilient-to-climate-change-than-first-thought-120948

サブサハラ・アフリカの気温が上昇しても、地下帯水層は充分な飲料水を供給するであろう。地下水は、一年を通して農村地帯では飲料水を供給し、現在、都市でもその利用が進んでいる。地下水量は、湖や貯水池の 20 倍の水量を維持していると推定されている。気候変動があっても、地下水量は維持されるか、否かが大きな問題提起で、

また、地下水がどのように補充されるのかといった知識は、現状では限られている。

６．「アフリカ西部：ギニア湾の海賊問題は、東海岸の例から学べ」

“Gulf of Guinea must look east to solve its pirate problem”
Daily Maverick、Peter Fabricius、８月１日
https://www.dailymaverick.co.za/article/2019-08-01-gulf-of-guinea-must-look-east-to-solve-its-pirate-problem/

ソマリア沖の海賊行為は、2011 年の 237 件から 2018 年には 3 件に減少した。

The International Maritime Bureau Piracy Reporting Centre (IMB-PRC)によれば、西アフリカ沿岸、特に、ギニア湾における海賊行為は最悪の状態である。

ソマリア沖で逮捕された海賊は、ケニアやセイシェルの裁判所で裁かれ、ソマリアで投獄される。ギニア湾においては、このような“最後の決着”が無いのが、犯罪の増加の理由ではないか、と指摘されている。

７．「ウガンダ：新しいエボラワクチンの第二防衛線としての開発」

“The Uganda vaccine trial: how African researchers are tackling Ebola”
The Conversation、Yap Boum、８月７日

https://theconversation.com/the-uganda-vaccine-trial-how-african-researchers-are-tackling-ebola-121517

ウガンダでは、エボラの異なるウイルスや、他の出血性熱病へ効果のあるワクチンのテストが行われている。7 月には、科学者たちが新たなエボラワクチンを試験的に使用している。もし成功すれば、これはエボラワクチンの第二線の防衛となる。

第一線は、コンゴ（民）で WHO の監督下で行われているワクチンのテストである。

記事は、第二防衛線の重要さについて説明している。

８．「エチオピア：シダマ地域が独自の州への昇格を求めている」

“Why Sidama statehood demand threatens to unravel Ethiopia’s federal system”

The Conversation、Yohannes Gedamu、８月１２日

https://theconversation.com/why-sidama-statehood-demand-threatens-to-unravel-ethiopias-federal-system-121701

エチオピアは、民族で分かれた州の連邦制であるが、問題は少なくない。現在、南部エチオピア州の中のシダマ族の地域は、州の中で自治権を与えられている。しかし、同族はエチオピア人口の 4%を占める大部族でもあり、独自の州としての承認を求め、20 年が経つ。新首相の下で、多くの政治改革が行われており、シダマ地域も州に昇格することを求めている。

現在は、一時的に平穏であるが、エチオピアの連邦制に含まれる問題を示唆している。

９．「ガーナ：独立の闘士エンクルマの遺したものは今でも熱く議論される」

“Kwame Nkrumah: why, every now and then, his legacy is questioned”

The Conversation、A.K.Amoako-Gyampah、７月３１日

https://theconversation.com/kwame-nkrumah-why-every-now-and-then-his-legacy-is-questioned-120790

ガーナを独立に導き、モダンガーナの父と崇められているエンクルマが、世を去ってから 50 年も経つが、彼の役割や種々の決定については、今でも熱く議論されている。

火の玉のように燃え尽きた独立の闘士について、もう一度、思い起こすことも悪くないのではないか。

10.「ガーナ：電力不足が過剰となり、財政の大きな負担となっている」

“Lessons to be learnt from Ghana’s excess electricity shambles”

The Conversation、Samuel Asumadu Sarkodie、８月６日

https://theconversation.com/lessons-to-be-learnt-from-ghanas-excess-electricity-shambles-121257

ガーナは、2014 年と 2015 年に発電容量が不足し、特に、鉱業と製造業は生産を縮小し、失業も増えるという経済に大きな影響を与えた。政府は対策として、民間部門の発電能力拡大に期待した。現在の発電容量は 5,083MW であり、最大需要 2,300MW をはるかに超えている。

これは政府の契約の仕方に問題があり、消費しない電力にも政府は支払わなければならない。財務大臣はこれが国家財政に大きな負担となっていると表明している。

11.「ガーナ：青年達は汚職をどの様に見ているのか」

“How young educated Ghanaians view corruption”

The Conversation、Justice Tankebe、８月１３日

https://theconversation.com/how-young-educated-ghanaians-view-corruption-121147

公的機関によれば、ガーナは年間 30 億（米ドル）を汚職で失っている。

経済的なコストだけではなく、汚職は民主主義制度、法による統治、人権侵害等に実害をもたらす。青年達に贈収賄とネポティズムについて、警察、公的調達、他人のための権力の乱用の 3 ケースについて調査を行ったところ、50%が友人、親戚のために現金の贈収賄でなく、地位を使っての公的調達の便宜を図るとし、1/3 が贈収賄を行うと答えている。友人、親戚関係が、現金のやりとりよりも、汚職に深く関連していることを示唆する。

12.「カメルーン：幾つかの深い政治的亀裂が国政を脅かしている」

“Cameroon’s three deepening divides all have one thing in common”

African Arguments、Yuhniwo Ngenge、８月１３日

https://africanarguments.org/2019/08/13/cameroon-crisis-three-deepening-divides/

ビヤ大統領の 37 年間の統治の下で、いくつもの深い亀裂が、国政を脅かしている。

第一は、英語圏と仏語圏の対立である。第二には、バミリエケ民族の経済分野での勢力である。製造業をコントロールしているほか、仏語グループであるが、英語圏との結びつきも強い。

第三に、ブル・ベッティ連合は政治的な勢力を維持し、このグループのエリートは、カメルーンの指導者であるとの自負を持っている。第四には、北部のイスラム教徒達であり、ビヤ大統領の後任は、このグループから出すことを狙っている。

いずれの亀裂も深いものであるが、共通の問題は、86 歳の大統領が何時まで政治的に、全てのグループをコントロールできるかである。

13.「ケニア：米国への大代表団の費用について、公表を求めている」

“Raila demands answers on Nashville trip, wants names published”

Daily Nation、JILL NAMATSI、８月７日

https://www.nation.co.ke/news/MPs-must-explain-costly-Nashville-trip-Raila/1056-5227134-fk8ktn/index.html

テネシー州ナッシュビルで開催される国会議員会合に、85 議員とそのスタッフが出席するために、４フライトと宿泊費が支出されなければならない。

これは世界最大の代表団である。次に大きい代表団はナイジェリアで 20 人である。多くの国は、１人から６人である。オディンガ（現在野党 ODM 代表）は、出席する議員名、手当等を公表するように求めている。

政府は、予算節約の一環として、外国出張を絞っているところである。

14.「ケニア：北部では干ばつにより大規模な飢餓の可能性」

“Kenya drought: More than a million people face starvation”

Aljazeera、Catherine Soi、８月８日（Audio）

https://www.aljazeera.com/news/2019/08/kenya-drought-million-people-face-starvation-190808101756682.html

雨期は終わったが、雨量は足らず、食糧不足と水不足を解決するにはほど遠い。

ケニアの北部では、干ばつにより百万人以上が飢餓の淵におり、牧畜民は水と牧草地を求めて争っている。

15.「ケニア：母乳の足りない母子のために“母乳銀行”の設立」

“Kenya's new breast milk bank in bid to reduce infant mortality”

BBC、Esah Panyako、８月９日(Audio)

https://www.bbc.com/news/av/world-africa-49279759/kenya-s-new-breast-milk-bank-in-bid-to-reduce-infant-mortality

WHO によれば、世界で毎年８万人の赤ん坊が、母乳がないために死亡している。

ケニアでは、新たに「母乳銀行」が発足し、母乳の寄付を受けて母乳の不足している母子を助けることが始まった。

BBC の記者が、助けられた母親達をインタビューしている。

16.「ケニア：『緑の金』の生産が、穀物生産を減少させるかも」

“'Green Gold' - Farmers Abandon Food Crops to Grow Herbal Stimulant”

Thomson Reuters Foundation、Kagondu Njagi、８月１２日

https://allafrica.com/view/group/main/main/id/00069439.html

ケニア中部のある村では、穀物は作付されず、ムグカが栽培されている。ムグカは、刺激性の葉で、カットの一種であるが、それより強く、疲労感を解消するそうである。

農民は、伝統的なメイズやコメの栽培からムグカに移っている。伝統的作物の５倍の収益が上がると、言われている。農民は「緑の金」であると受け止めている。

ムクガは成長も早く、メイズの半分の水で育つ。農業専門家や政治家は、穀物の生産減少を心配している。

17.「コンゴ（民）：２種のエボラに有効な薬が開発された」

“Ebola drugs show ‘90% survival rate’ in breakthrough trial

BBC、８月１３日

https://www.bbc.com/news/world-africa-49326505?intlink_from_url=https://www.bbc.com/news/world/africa&link_location=live-reporting-story

エボラの治療にも予防にも有効な、２種の薬が開発された。コンゴ(民)のすべての患者に使用される予定である。13 日に、完治した患者２名が、退院した。

２種の薬の名は、REGN-EB3 と mAb114 であり、エボラウイルスに対して抗体を持ち、人の細胞へのウイルスの働きを無効にするとされている。

18.「スーダン：スーダンに及ぼす中近東の影響は限界がある」

“Cash and contradictions: On the limits of Middle Eastern influence in Sudan”

African Arguments、Alex de Waal、８月１日

https://africanarguments.org/2019/08/01/cash-and-contradictions-on-the-limits-of-middle-eastern-influence-in-sudan/

軍事評議会が、バシール大統領を逮捕すると、沿岸諸国のサウジアラビア、UAE、エジプトは、5億ドルの現金をスーダンに送り、更に25億ドル相当の物資の支援を約束した。アフリカ諸国とアラブ専制政権との対立となっており、前者の分が悪い立場と言えるが、全てがアラブ専制政権側の思い通りにはなっていない。この調停におけるAUの役割は限られ、シンボリックとも言える。

実際の仕事は、米国と英国の外交官によってなされた。

(少々長いが、この分野の専門家Alex de Waal教授の記事であり、参考となる。)

19.「チャド：部族抗争は拡大し国家的な問題である」

“Chad: Intercommunal conflict 'national concern' after 37 killed”

Aljazeera、８月８日

https://www.aljazeera.com/news/2019/08/chad-intercommunal-conflict-national-concern-37-killed-190809151848419.html

チャドのスーダンと国境を接するOuaddai州で、今週、数十人が殺された。これはラクダの遊牧民族と農民の部族による抗争によるものである。デビ大統領によれば、この抗争は数十年に渡るものであるが、地域が拡大している。

以前、両民族は平和に暮らしていたが、最近、隣国リビヤ、中央アフリカ、スーダン等から、武器が流入して来ているのも原因の一つである。

20.「チュニジア：エセブシ大統領の後任をめぐる選挙」

“Essebsi is gone: Tunisia's young democracy faces its toughest test”

The Conversation、Jonathan Powel&Clayton Besaw、８月１５日

https://theconversation.com/essebsi-is-gone-tunisias-young-democracy-faces-its-toughest-test-121256

チュニジアのエセブシ大統領が、92歳でなくなった。民主化革命の確立のために働いていたが、仕事半ばでの急逝であり、多くの仕事を残して逝った。

憲法に従って、大統領選挙が9月15日に行われることになった。エセブシ大統領の残した民主化の実験の行方は、9月の選挙で明らかになるであろう。

国民の間では、現在の政党に対する信頼は低く、また民主主義に対する期待も薄れてきている。エセブシ大統領に代わる明らかな後継者はおらず、このような場合民主化は後退するが、いかなる結果となろうか。

21.「ナイジェリア：USAIDによる農業ビジネスへの投資計画」

“How Govt Can Support Agribusinesses - Experts”

Premium Times、Oge Udegbunam、８月８日
https://allafrica.com/stories/201908080341.html

USAID 主催の農業ビジネスへの投資会合が、アブジャで開催された。USAID は、今後３億ドルをナイジェリアの７州へ投資する予定である。商業農産物としては、コメ、メイズ、大豆、カウピー、養殖などが挙がっている。農業産品は GDP の 20%を占めている。この分野での外国投資は、国内投資をも誘発すると期待されている。

政府は過去 4 年間農業への投資を続けているが、思わしい結果を得ていない。

22.「ナイジェリア：石油輸出が米国の競争に晒されている」
“Nigeria in Danger of U.S. Competition in Oil Sales”
Vanguard、 Ediri Ejoh、８月１３日
https://allafrica.com/view/group/main/main/id/00069433.html

ナイジェリアは、石油輸出で米国の厳しい競争に曝されている。両国とも、ガソリン精製に適したライト・スイート・オイルである。米国はトランプ大統領の戦略で、石油市場の優位を狙っている。2019 年初頭から欧州は、ナイジェリア原油の 46%、インド 18%、他のアジア 10%の輸入である。米国の石油輸出は 6 月以降急増し、一日 26 万バーレル（bpd）から、316 万（bpd）となっている。

その上、ナイジェリアの市場、欧州、インド、インドネシアに食い込んできている。

23.「ナミビア：植民地時代の大量虐殺を巡るドイツとの交渉」
“Has the relationship between Namibia and Germany sunk to a new low? ”
The Conversation、Henning Melber&Reinhart Kössler、８月４日
https://theconversation.com/has-the-relationship-between-namibia-and-germany-sunk-to-a-new-low-121329

ドイツは、ナミビアの独立以来、「特別な責任」があると自賛している。しかし、ナミビア側では、異なる評価である。1904～1908 年に、ドイツ軍が犯した大量虐殺が、両国間の問題であり、交渉は 5 年目を迎えている。

問題は、ドイツ側の謝罪の文言と弁償である。2015 年まで、ドイツは大量虐殺を認めていなかった。交渉の進行と結果は全く公表されていない。

24.「ブルンジ：マラリアの感染が 570 万ケース、死亡が 1800 人」
“5.7 million cases of malaria recorded in Burundi in 2019; 1800 die”
Gulf News、８月６日
https://gulfnews.com/world/africa/57-million-cases-of-malaria-recorded-in-burundi-in-2019-1800-die-1.1565082719400#

ブルンジでは、1800 人以上がマラリアで死亡している。隣国コンゴ(民)のエボラの流行による死亡数と、ほぼ同じである。

世界の 90%以上のマラリアの病例と死亡数は、アフリカであり、効果的対策を実行するには、人的、ロジ的、財政的な資源の不足が決定的な要因である。

25.「マラウイ：憲法裁判所が大統領選挙の結果について再検討」

“Malawi’s Top Court Hears Presidential Election Result Challenge”

Nyasa Times、Wongani Chiuta、８月９日

https://allafrica.com/view/group/main/main/id/00069407.html

マラウイの憲法裁判所は、3ヶ月前に行われた大統領選挙の結果を不正として、否定する反対党による訴えについてのヒアリングを開始した。

ムサリカ大統領は、投書用紙の集計において多数の不正な行為等を行い、「詐欺的に選挙の勝利を得た」という訴えである。

26.「南アフリカ：民主化の機会に得た女性の権利が、現在失われつつある」

“Little is left of the feminist agenda that swept South Africa 25 years ago”

The Conversation、Amanda Gouws、８月６日

https://theconversation.com/little-is-left-of-the-feminist-agenda-that-swept-south-africa-25-years-ago-121212

南アフリカが民主主義国家になった時に、多くの女性についてのアジェンダが採択されたが、25年経ってみると、当時勝ち取った制度、政策の多くは残されていない。

８月９日、女性の日に改めて、女性の権利、保護を調べてみると、後退が明らかである。南アフリカに限らずアフリカ大陸全体で見ても、女性のソーシャルメディアへのアクセスが、男性との比較で劣っている。これも一因であろう。

27.「南アフリカ：経済は非常に危険な領域に入り込み、抜け出す出口が見えていない」

“South Africa’s economy is in a perilous state and is running out of time to get fixed”

Quartz Africa、 Seán Mfundza Muller、８月７日

https://qz.com/africa/1683190/south-africas-economy-rising-debt-no-jobs-and-political-crisis/

南アフリカの財政は、危険な領域に入り込んでいる。第一に、経済成長は低い、あるいは、殆ど無い状態である。第二に、税収は予測より低い。第三に、債務は急激に伸び、アパルトヘイト廃止以後、最高のレベルである。第四に、国有企業の成績が悪く、政府の援助が必要である。

経済政策は古い政策の繰り返しに過ぎず、困難な状態から抜け出す燭光が見えない。

28.「モザンビーク：政府とレナモの和解成立」

“Mozambique Political Leaders Sign Peace Pact”

DW、８月１日

https://allafrica.com/stories/201908020001.html

モザンビークのニュシ大統領と、レナモの指導者モマデによって、和平合意がレナモの基地で結ばれた。モマデは今後、政治的目的を達成するために、暴力を行使することはないと宣言している。

先月末に、レナモの 5200 人以上の武装解除がおこなわれ、一部は正規軍と警察に編入され、その他は市民生活に戻る。レナモは 10 月の選挙には参加の予定。

29.「ルワンダ：コンゴ（民）のゴマでのエボラの発生により、国境を一時閉鎖」

“Ebola crisis: Rwanda reopens border with DR Congo amid outbreak”

BBC、８月１日

https://www.bbc.com/news/world-africa-49191715

ルワンダは、7 月 31 日に、コンゴ（民）のエボラの発生が報じられたゴマ市と接する国境を封鎖し、ギセニ市への交通を一時遮断した。

WHO は、国境を封鎖し人々の交流や商業を制限するのには反対であり、結果的に国境封鎖は数時間で終了し、両国の働く人々の流れは再開された。

30.「ルワンダ：悲劇を共通の記憶、伝承として具体化することに努力」

“Governing memory and cultural heritage after conflict in Rwanda”

Africa at LSE、Annalisa Bolin、８月６日

https://blogs.lse.ac.uk/africaatlse/2019/08/06/governance-memory-cultural-heritage-conflict-rwanda/

過去を具体化して現在に伝えるために、博物館や美術館がその役割を担う。ルワンダにおいても、1994 年の悲劇と暴力を、現代に具体化して国民に過去を学ばせ、民族的に分裂している国民のアイデンティティーを統一するためにも、国立博物館をその拠点とすべく、政府が努力をしている。

（注釈）

＊通貨換算 URL：http://www.xe.com/ja/currencyconverter/

お役立ち資料

顧　問　　堀内　伸介

○「アフリカ大陸経済統合に向けて、9版」

“Assessing Regional Integration in Africa | ARIA IX 2

UNECA,　２０１９年７月　(291ページ)

https://www.tralac.org/documents/resources/africa/2898-assessing-regional-integration-in-africa-ix-uneca-auc-afdb-unctad-july-2019/file.html

・本報告書は、アフリカ大陸自由貿易圏設立に向けての現状と諸問題について議論を展開し、政策提言をおこなっている。
・現在52か国AUメンバーが協定に署名し、4月現在、22か国が批准している。

今後の問題点

・経済統合の幾つかの問題点を挙げるとすれば、エネルギーとインフラ開発、不安定と紛争、地域的統合（ＲＥＣｓ）における複数および重複しているメンバーシップ。
・通貨統合が5地域的統合の中で進んでいる。
・サービス部門がGDPの大きな部分を占める現在、サービスの統合は重要である。
・現在のスキルとアフリカが必要としているスキルの乖離が、統合と開発を遅らせる。
・インフラの不足が、地域内の貿易の障害となる。
・地域的エネルギーの統合は、この分野での投資の増加をもたらすであろう。
・アフリカのガバナンス、平和、安全は大陸全体の経済圏の設立には不可欠である。

政策提言

・重要なインフラ・プロジェクトを含む経済的物理的な統合が、必要である。
・国レベル、各地域統合レベル、AUレベルにおいて良いガバナンス、平和、安全が強化されなければならない。
・報告書では、さらに細部にわたる問題点の議論と、政策提言がなされている。

JICA 海外協力隊寄稿

タンザニアの体育と教育

― スポーツ・運動との出会いと成長 ―

隊　次：2017 年度 3 次隊
派遣国：タンザニア
派遣先：モロゴロ中等学校
職　種：体育
氏　名：田中佑啓

Ⅰ．はじめに

ジャンボ！の挨拶でおなじみのタンザニアは、タンザニア本土とザンジバル他島々から構成される国で、日本の約 2.5 倍の国土を持っています。

食料自給率は 100%を超えており、街にはたくさんの野菜や果物、そこにアフリカ布をまとったタンザニア人も相まって、目の前にはいつも色鮮やかな世界が広がっています。そんなタンザニアでの私の配属地域は、経済首都のダルエスサラームから西に 180km、バスで約 4 時間半のモロゴロというところです。町の北側に位置するウルグル山脈が、いつも小さな賑わいを見せるモロゴロの町を見下ろしています。

私は町の中心街から徒歩 10 分のモロゴロ中等学校で体育隊員として派遣されています。主な活動の軸は、学校体育教育に関する活動とスポーツ普及・指導を含めた課外活動の２つです。

ではここで、「体育」と「スポーツ」の違いについてご説明致します。体育はスポーツを通じて、児童・生徒の心身の成長を促す教育の一環です。そして、スポーツは勝敗や肉体的鍛錬などの要素を含む身体運動の総称です。この両者の違いを踏まえつつ、私の活動を紹介します。

Ⅱ.学校体育教育に関する活動

１．103 人の子供たち

私の配属先の学校は中心街から近く、1 月になると、小学校を無事卒業した沢山の子供達が入学します。

学校は男女共学で、O-Level（日本の中学校）約 1600 名、A-Level（日本の高等学校）約 400 名、現地教員が約 90 名（内、同僚 2 名）と町の中でもとても大きな中等学校です。

体育授業は全生徒必修ではなく、O-Level の生徒の中から選択した生徒のみ授業を受けます。初めて学校に訪れた日、体育授業をする教室に入ると、そこには生徒が 4 人ずつ、肩を入れ替えながら長椅子に座り、

103 人の生徒がミニテストで頭を抱える様子

ひとつの教室が立錐の余地なく、男女計 103 人の生徒で埋め尽くされていました。

当然、生徒一人ひとりに対して、生活管理や成績・進路指導等は行われている様子は伺えず、ただひたすら、勉強（暗記）をする為の空間という印象を受けました。

私の思う体育授業での学びとは、楽しみながら集団での行動・運動を学び、意見交換を通じて他者の価値観を理解する、そして、個人の運動能力の成長を楽しむ事だと思っています。しかし、タンザニアの学校教育は詰込み型で、先生の書いた板書をひたすらにノートに写す作業のようなものです。そこで、体育を選択した子供達には、体育を通して楽しみながら学ぶことを知ってもらおうと考えました。

２．映像授業と実技の実施

モロゴロ中等学校の授業では、教師が教科書に書かれた理論を黒板に板書し、暗記させる授業スタイルです。これは体育授業でも同じで、外で体を動かす事はほとんどなく教室で理論を学びます。しかしながら、タンザニアの体育シラバスには膨大な量のトピックがあり、これらを全て網羅するためには、教室内での授業が中心とならざるを得ないという理由があります。ただ私は、「これでは全く楽しい授業ではない！」と思い、スマートフォンを使い映像を見せ、学校にプロジェクターがあるときは大きな教室に連れていき、競技に必要な道具や競技方法の映像を見せて、視覚や感覚に訴える授業スタイルを実施しました。今まで文字でしか見たことのない怪我の症状や、競技道具などを写真で見るといつも決まって「おぉー」といった声が上がります。

子供たちの素直な反応はとてもシンプルですが、そんな中でも“カチッ”と、子供たちの理解した音が聞こえるような気がしています。時々、私が写真の準備をしていなかった授業で、子供達の方から「写真は？」と言われ、準備不足を反省すると同時に、興味を持ちながら授業を聞いている姿勢に嬉しく思います。しかし、103 人の子供達の理解している様子を確認しつつ、映像を見せながら板書や口頭で説明を行うことは容易な事ではありませんでした。

制服のままクラウチングスタートの練習

映像を見ることに夢中になって何度説明しても聞いていない、書き写す時間を与えても書いていないなんてことは１年半経った今でも遭遇します。このようなことから、映像授業を行うときは時々同僚のサポートを求めることにしています。正しい現地語での追加の説明を同僚に行ってもらい、私は本来の授業を進めます。同僚にサポートを依頼したことで、同僚との関係が良くなったのはうれしい誤算でした。それまでは、体育の情報を共有する程度でしたが、私自身が同僚の授業にもサポートを頼まれたり、相談を受けたりと、以前よりも話しやすい関係になったように感じています。

実技の実施も時間を作りながら取り組んでいます。教えなければならない理論が沢山あるので、毎回グラウンドで活動することは難しいですが、トピックが変わるごとに必ず、グラウンドで実技をすることを心がけています。

実技を行ったことによって成績が上がった、なんておいしい話はなかなか難しいですが、実技の授業を行ったことによって授業参加の意欲や、楽しく学ぶ姿勢を示す生徒が増えたように感じています。クラス内の雰囲気では“遊ぶこと”と“楽しみながら学ぶこと”を混同しないように注意を払いながら進めています。

学校で学んだことが日常生活の事象と繋がれば理解が深まるように、理論で学んだ事と実技の技術をリンクさせる事ができれば、より楽しく理解が深まるのではないかと考えており、そのような授業を展開することが自身の課題だと感じています。

Ⅲ．スポーツ普及・指導

１．アルティメットの普及

タンザニアでは圧倒的にサッカーが有名なスポーツです。サッカーの国内リーグの試合がある時は、仕事の時間にサッカーの話をして、退勤時間になるとすぐに退勤する…。なんて光景は見慣れたものです。

個人的な印象としては、タンザニアの方々はどの年齢層も日本人よりスポーツや運動をしているように感じます。町のジムに行けば老若男女問わず、汗を流して運動に取り組んでいます。その背景として、タンザニアの国内に手軽な（お金のかからない）娯楽がないのが影響していると考えます。何か新しいスポーツを紹介し、取り組むことから始めれば、子供達も食いついてくるかもしれない！と考えていた時期に、日本アルティメット協会からアルティメットディスクの提供をして頂き、配属先の学校を始め、近隣の学校にアルティメットの普及活動を行いました。

このスポーツは、ゴールエリアまでフラングディスクを地面に落とさずに繋げ、その得点を競うスポーツです。新しいスポーツに子供達は興味津々で、とても好感触を得ることができました。

思っている以上にまっすぐ投げることが難しく、近隣の学校の先生達も楽しそうに遊んでいました。

近隣の学校でのアルティメット普及・指導活動

今、タンザニアにあるスポーツが全てではないことを指導前に説明し、現地の先生含め子供達に、いろんな世界に目を向けて欲しい事を伝えました。実際に私自身も協力隊でアフリカに来てから沢山の新しい世界を見ました。見る世界や、見る角度は違っても、タンザニアの人々にも感じる事はあると思っています。タンザニア全土に普及することは簡単な事ではないと思いますが、任地から少しずつ普及していけば良いと願っています。

配属先では毎朝 7 時から始まる授業の前まで朝練習を行っています。最初は学校の集会で呼びかけて選手を集めました。最初はルールも、投げ方もわからない子供達でしたが、練習を重ねることで難しい投げ方も習得していきました。子供達は一度のめりこむと時間を忘れてディスクを投げています。運動だけでなく時間管理を含めた私生活等の指導も、スポーツを通して引き続き行いたいと思います。また、任期内に、近隣の学校で活動しているアルティメットクラブの指導も定期的に行い、近隣の学校を巻き込んだ大会も開きたいと考えています。その為には現地の教員にもアルティメットの存在を広め少しでも楽しんで協力してもらえる取組みが必要だと考えています。

２．卓球クラブ創設と全国 2 位まで

赴任 1 年目にはサッカー指導を行っていましたが年度の節目に終了し、2 年目から卓球指導を始める事となりました。幸運にも、州のオフィスから卓球台と道具一式を学校に支給してもらえた為、アルティメット同様に集会で選手を募り、練習をスタートすることにしました。最初は物珍しさから大人数の生徒が参加していましたが、徐々に数も減ってくるとそれ以降は決まったメンバーで練習することになりました。卓球も毎日放課後に練習する流れになりましたが、決して私が決めたわけではなく、子供たち自ら練習時間を決めて取り組んでいました。

州の職員から UMISSETA（タンザニア中等学校スポーツ大会）があることを教えてもらい、出場を目標に置きさらに卓球クラブに熱が入りました。UMISSETA に出場するためには州の予選大会を突破する必要がありましたが、幸運にも州予選に参加したチームは、自分たちの学校 1 チームのみだったので楽々と出場を果たしました。そんな中、全国大会までの数日間、ラケットやボールを破損・紛失するトラブルもありました。

大会役員（右）から 2 位のトロフィーを

ただ、管理が疎かになる事で道具がなくなるとどうなってしまうのか、誰が競技できないのかなどを改めて子供たちに考えさせる機会となり、責任感も同時に成長した良いトラブルでした。

全国大会では初めて出会った他地域の選手と大きな舞台に緊張してしまい、初戦は実力を出せませんでしたが、無事に予選を突破しました。

決勝トーナメントとなると、強豪揃いで終始危ない試合でしたが、子供達でアドバイスを出し合いながら良い緊張感の中でプレーしていました。終わってみれば初出場で全国 2 位という結果でした。子供たちも大会を通して日々成長し、自信をつけ最後は笑顔も出るほどで、大会前と同じ選手とは思えないほど、成長した姿を見せてくれました。今後は、惜しくも、決勝戦で敗れた敗因をもう一度選手と共に考え、来年度の優勝を目指して練習していきます。現在は全国 2 位の結果から東アフリカ中等学校スポーツ大会の出場切符を手にし、タンザニア国内のアルーシャという地域で大きな大会に挑んでいます。

私も帯同しており、結果よりもタンザニア中等学校の生徒代表として自信をもって全力でプレーしてほしいと思っています。

Ⅳ．最後に

タンザニアでは未だ、体育の授業が学校に根付いているものではありません。しかし、どこの学校を訪問しても「体育は必要だ」と口を揃えて答えます。

しかし、たいていの学校は体育とスポーツを同じだと考えています。本当に体育が必要なのか、スポーツを行いたいのかどちらかはわかりませんが、本当に必要だというならお金をかけて、体育やスポーツの制度改革に取り組む事を信じています。

実際に東アフリカ中等学校スポーツ大会では、毎年隣国のウガンダがサッカーやネットボールそして卓球、ルワンダがハンドボールやバスケットボール、ケニアがバレーボールやホッケー・ラグビーなどの競技で優勝しています。

タンザニアの体育・スポーツに関わった身として、これからタンザニアの名がスポーツの分野で広がっていくことを楽しみにしたいと思います。（了）

アフリカ映画情報

特別研究員　高倍　宣義

★特別企画　　☆上映予定　　＊全国順次公開中

★TICAD7

8 月 10・11 日に JICA 横浜で**《JICA 映画祭 for アフリカ》**として、**「Wax Print」、「チョコラ！」、「女を修理する男」、「アフリカ・ユナイテッド」、「バレンタイン一揆」、「おじいさんと草原の小学校」**6 作品が上映された。見たのは、西アフリカのワックスプリントの 200 年に及ぶ交流の歴史をたどる Aiwan Obinyan 監督のドキュメンタリー**「Wax Print」(18)**

https://www.youtube.com/watch?v=TiN4DztRCVY

8 月 29 日に桜木町で、国際交流基金・外務省・UNICEF 主催のサイドイベントとして今年のフェスパコでグランプリを受賞したジョエル・カレケジ監督作**「密林の慈悲」The Mercy of the Jungle (18)** https://www.youtube.com/watch?v=WC9VIky-NVQ の特別上映と映画作家川瀬直美をはじめ内外の映画人 7 人による日本とアフリカの連携を探る活発なシンポジウム**《越境するアフリカ映画》**（司会：岡島尚志国立映画アーカイブ館長）で開かれた。
上映作は、モブツ体制が崩壊した後のコンゴ（民）の新しい権力樹立を巡り、1998 年に起きた第 2 次コンゴ戦争を舞台に、部隊を外れた 2 人のルワンダ兵を描いたドラマ。

★「UNHCR WILL2LIVE 映画祭 2019」は、旧来の「UNHCR 難民映画祭」の新名称。　“WILL2LIVE”は難民の意志（＝Will to live）を示し、上映作品のテーマである。9 月 21 日－10 月 14 日、東京と名古屋で開催。アフリカ映画は**「イージー・レッスン」**Easy Lessons と**「ヒューマン・フロー　大地漂流」**Human Flow の 2 本。　https://unhcr.refugeefilm.org/2019/

☆「エンテベ空港の 7 日間」Entebbe (18)　ジョゼ・パジーリャ監督
10 月 4 日より TOHO シネマズ　シャンテ　他順次公開　http://entebbe.jp/
1976 年イスラエル・テルアビブ発パリ行きのエールフランス 139 便が西ドイツの革命細胞（RZ）の２人とパレスチナ解放人民戦線（PFLP）の２人のテロリストに乗っ取られ、ウガンダのエンテベ空港に向かうハイジャック事件が発生している。事件の４度目の映画化では、ブラジル人監督が新事実などを盛り込んで 7 日間の政治群像劇に仕立てた。ウガンダのアミン大統領も登場し、政治交渉の裏で、極秘にエンテベ空港奇襲作戦は準備される。

☆「ラフィキ　ふたりの夢」RAFIKI (18) ワヌリ・カヒウ監督　http://senlis.co.jp/rafiki/
11 月、シアターイメージフォーラム他順次。ケニアの法律で禁止されている同性愛を扱っているため、国内上映が禁止となるも、裁判所が 1 週間の上映を認めたことから、カンヌ映画祭、アカデミー賞ノミネート、ワガドゥグ映画祭などに出品され話題となった作品。ナイロビを舞台に恋するふたりの少女は対立する家柄と聴くと、現代版ロメオとジュリエットかな。

＊「風をつかまえた少年」The Boy who Harnessed the Wind　(19)
キウェテル・イジョフォー監督　https://longride.jp/kaze/　　全国他順次好評公開中
学ぶことで人生が開けたマラウイの理科少年の実話映画です。マラウイの田舎の風景、村、家族、政治、葬儀、なまはげのような「グレワンクール」もよく描かれています。　　以上

アフリカ協会からのご案内

事務局長　成島　利晴

― 協 会 日 誌 ―

8 月 15 日～9 月 14 日

8 月 15 日　「野口久光・渡辺貞夫写真展“まなざしの先に”」

8 月 15 日から 21 日まで、和光本館 6 階“和光ホール”にて開催の野口久光・渡辺貞夫写真展が開催されましたが、それに先立ち 15 日に渡辺貞夫氏をお迎えしてのトークショーが行われました。渡辺貞夫氏を中心にゲストスピーカー等とともに、故野口久光氏との交流や写真に関する著名音楽家・歌手や女優の思い出などが語られました。

8 月 28 日～30 日　「TICAD７」の開催

8 月 28 日から 30 日まで、横浜にて第 7 回 TICAD が開催されました。アフリカから多くの閣僚が来日し、日本側とさまざまな協力関係の強化・投資の促進などを討議致しました。この期間中にアフリカに関連する各種イベントが企画され、当協会も下記の通り開催案内を会員及び関係者と共有致しました。

8 月 22 日　西村あさひ法律事務所セミナー:「アフリカ進出のリスク・マネジメント」
8 月 27 日　UNIDO シンポジウム :「アフリカ産業化の未来：アフリカ大陸自由貿易圏で変わるアフリカ経済・産業・ビジネス」
8 月 27 日　フェリス女学院大学ボランティアセンター：「アフリカと女性－グッドガバナンスに対する女性の役割」
8 月 28 日　ササカワ・アフリカ財団シンポジウム：「アフリカの農業と未来－若者の力と農業ビジネス」
8 月 28 日　ZENMONDO セミナー：企業の海外進出成功の鍵を握るグローバル人材育成「実践型・海外人材を育成する為に今、企業が実践するべきことは！？」
8 月 28 日　STS フォーラム：日・アフリカワークショップ「科学技術とイノベーションにおける日・アフリカの連携強化」
8 月 29 日　UNIDO エネルギー部シンポジウム：「Powering African Innovation」
8 月 29 日　アライアンス・フォーラム　アフリカ・パートナーシップ会議「豊かな未来に向けたアフリカと日本のパートナーシップ」
8 月 29 日　国際交流基金アフリカ映画上映及びシンポジウム :「越境するアフリカ映画－新たな連携をめざして『密林の慈悲』特別上映」
8 月 30 日　UNIDO　アフリカ企業・UNIDO アドバイザーとの商談会

8 月 31 日　「マラウイを語る集い 2019」

日本マラウイ協会主催により JICA 地球ひろば 2 階にて開催されました。
マラウイ共和国へは 1971 年から青年海外協力隊員を継続的に派遣し、2018 年度末では総数 1,816 名と世界最大となっています。

9月01日　「インクルージョンフェスティバル2019　in　せたがや」
インクルージョン実行委員会主催にて、世田谷区の会場を中心に日本を始め各国の障害を持つ子供たちが描いたアート作品の展示や、障害者団体の制作した作品の販売を行いました。障害福祉分野の向上並びに、発展途上国における経済・文化活動の促進に寄与することを目的としています。

9月01日　「TOKYO AFRICA COLLECTION2019」
TOKYO AFRICA COLLECTION主催により有楽町朝日ホールにて、アフリカを題材としたファッションを紹介するショーを開催致しました。
今回はルワンダのファッションショーKigali International Fashion Weekと連携してアフリカ各国からのデザイナーを招待するなど、斬新なデザインのショーとなりました。

9月05日　「第7回アフリカサロン」
外務精励会　大手町倶楽部にて、玉川雅之工学院大学常務理事・教育開発センター特任教授（アフリカ協会顧問・元アフリカ開発銀行アジア代表事務所長）をお迎えして「アフリカビジネスとアフリカ開発協力」について討議するアフリカサロンを開催しました(13名出席)。AfDB在勤時の豊富なアフリカビジネスのご経験に加え、TICAD７の成果や課題など活発なサロンとなりました。

<u>今後の予定</u>

9月19日　「第7回在京アフリカ大使との懇談会」
時間：14時30分から16時予定
場所：国際文化会館　4階　403/404号室
在日コートジボワール大使ジェローム・クロー・ウェア閣下をお招きして、
コートジボワール共和国の政治・経済の現状について講演頂きますので、多数のご参加を期待しています。

9月29日　「第7回世界一愉しいアフリカ講座」
時間：13時30分から16時45分予定
場所：JICA地球ひろば　国際会議場
「女性が大活躍のアフリカ」と題してアフリカで活動している女性たちにお話を伺います。

9月30日　「第20回日本中近東アフリカ婦人会　チャリティーバザー」
主催：日本中近東アフリカ婦人会
時間：11時から15時30分
場所：ロイヤルパークホテル　3階　ロイヤルホール
中近東アフリカの国々に在住経験のあるご婦人方を中心に隔年で開催しているチャリティーバザー。今回は1981年に発足以来第20回目の記念イベントでもあり、

多数の皆様のご来訪をお待ちしています。当協会は本イベントを後援しています。

10 月 02 日　「第 9 回　浦林駐スーダン大使を囲む懇談会」

時間：14 時から 15 時 30 分予定

場所：国際文化会館　4 階　404 号室

在スーダン共和国日本国大使館の浦林紳二大使をお迎えして、スーダンの政治・経済情勢を中心に懇談致します。

10 月 16 日　「第 10 回　軽部駐コンゴ民大使を囲む懇談会」

時間：14 時から 15 時 30 分

場所：国際文化会館　4 階　403 号室

在コンゴ民主共和国日本国大使館の軽部洋大使をお迎えして、コンゴ民主共和国の政治・経済情勢を中心に懇談致します。

服部禮次郎アフリカ基金助成申請

一般社団法人アフリカ協会は、管理・運営している本基金について、2019 年度の助成申請の受付を開始致します。多数のご応募をお待ちしています。

服部禮次郎アフリカ基金（2019 年度）

目的：　日本とアフリカ諸国の相互理解と繁栄を支援致します。

助成（一部助成）対象事業：

- ・アフリカ諸国における人道援助等への助成、経済・技術・文化交流等への助成
- ・アフリカ諸国に関する資料の整備、調査研究活動への助成
- ・日本におけるアフリカ理解促進のための事業への助成

助成金額：2019 年度助成総額は 100 万円（助成件数は 1～2 件）

助成対象事業の実施期間：原則として 1 年間

報告の義務：助成金受給者は、助成対象事業の実施期間終了後 3 か月以内に、事業の経過及び結果、並びに助成金使途報告書を事務局宛提出。尚事務局は別途機関誌掲載の為の報告書の提出を要請する場合があります。

選考方法：アフリカ協会の理事会で選任された 6 名の基金・事業選定委員会で厳正に審査・選考いたします。

応募方法：所定の申請書および推薦書（原則 2 通）に必要事項を記入の上、事務局に提出願います。尚申請書提出後、基金・事業選定委員会による申請者インタビューに出席頂きます。

応募締切日：2019 年 9 月 28 日（月）

助成金交付時期：2019 年 12 月末（予定）

事務局：郵送先：〒105-0003　東京都港区西新橋 3 - 23 - 6　第一白川ビル
一般社団法人　アフリカ協会
TEL:　03 - 5408-3462
E-Mail:　info@africasociety.or.jp

サブサハラ・アフリカ奨学基金助成申請

一般社団法人アフリカ協会は、管理・運営している本基金について、2019 年度の助成申請の受付を開始致します。多数のご応募をお待ちしています。

サブサハラ・アフリカ奨学基金（2019 年度下期）

目的：　日本とサブサハラ諸国の民間、友好親善に寄与することを目的とします。

助成（一部助成）対象者：サハラ砂漠以南のアフリカで、勉学・研究を志す就学者及び研究者

助成金額：2019 年度下期総額は 100 万円（１～2 名）

助成対象事業の実施期間：原則として 1 年間

報告の義務：助成金受給者は、助成対象実施期間終了後 3 か月以内に、経過及び結果、並びに助成金使途報告書を事務局宛提出。尚事務局は別途機関誌掲載の為の報告書の提出を要請する場合があります。

選考方法：アフリカ協会の理事会で選定された 6 名の基金・事業選定委員会で厳正に審査・選考いたします。

応募方法：所定の申請書および推薦書（原則 2 通）に必要事項を記入の上、事務局に提出願います。尚申請書提出後、基金・事業選定委員会による申請者インタビューに出席頂きます。

応募締切日：2019 年 12 月 27 日（金）

助成金交付時期：2020 年 3 月末（予定）

事務局：郵送先：〒105-0003　東京都港区西新橋 3 - 23 - 6　第一白川ビル
一般社団法人　アフリカ協会
TEL:　03 - 5408-3462
E-Mail:　info@africasociety.or.jp

公益信託アフリカ支援基金　助成申請

「公益信託アフリカ支援基金」は、アフリカ地域での各種の活動を行う団体に対し、助成を行っています。2019 年度の助成申請の受付を開始致しました。多数のご応募をお待ちしています。

◆　応募要項　◆

１．目的　　この基金は、アフリカ地域における人々の生活向上のための支援を行います。

２．助成対象事業　アフリカ地域の社会福祉・保健医療活動等に対し支援します。
なお常勤の職員の人件費、事務所賃借料、その他の団体の経常的運営に要する経費、個人または団体に贈与される寄付金・義援金等は助成の対象となりません。

３．助成の金額と期間（1）2019 年度の助成総額は 500 万円程度（助成件数は 2～3 件）
（2）助成対象事業の実施期間は、原則として 1 年間とします。

４．報告の義務　助成受給者には、助成対象者の実施期間終了後、2 ヵ月以内に事業の経過及び結果、並びに助成使途報告書を事務局に提出して頂きます。なお事務局は受給者に事業の進捗に関わる中間報告の提出を要請する場合があります。

５．選考方法　　学識経験者からなる運営委員により厳正に審査・選考致します。

６．応募方法　　所定の申請書、及び推薦書に必要事項を記入の上、事務局宛にお送りください。

７．応募締切日　2019 年 10 月末日（事務局必着）

８．助成金交付時期　2020 年 1 月（予定）

９．事務局　　〒103-8670　東京都中央区八重洲 1-2-1
みずほ信託銀行株式会社　信託総合営業五部 TEL　03（3274）9239

10．問合せ先　　〒103-8670　東京都中央区八重洲 1-2-1
みずほ信託銀行株式会社　信託総合営業五部 TEL　03（3274）9239
〒105-0003　東京都港区新橋 3-23-6　第一白川ビル
一般社団法人　アフリカ協会　　TEL　03（5408）3462

11．その他注意事項　・提出して頂いた申請書等は、返却いたしません。
・選考結果は、申請者全員に書面にて通知いたします。
・本基金は推薦者・申請者の個人情報を審査・選考及び助成のために必要な範囲において取り扱うこととし、その範囲を超えて使用することは一切ありません。　　（受託者　みずほ信託銀行）

アフリカ協会主催　第３回高校生エッセイコンテスト

（セイコーホールディングス社協賛）

当協会では、アフリカに強く関心を持っている高校生を支援するために、下記の要領で 2019 年度のエッセイコンテストを募集いたします。多数のご応募をお待ちします。

応募要項

１　目的　高校生のアフリカへのさまざまな関心をエッセイとして発表することによって、多くの若い方々にアフリカに関する知識を広め一層の関心を高めることを目的とします。

２　テーマ

『　アフリカについて　』

（「アフリカと私」など、身近にあるアフリカとの関りでも構いません。）

３．応募資格　原則として高校在学中の学生及びグループ等

４．応募作品　日本語 4,000 字から 6,000 字以内

５．提出要項　Word 形式の原稿データ及びＡ４用紙にプリントアウト（写真・図表を含む）

注）応募原稿の表紙に、必ず、タイトル・住所・氏名・年齢・学校名・学年・連絡先（電話番号・メールアドレス）を記載

応募原稿の表紙・参考文献は各々1 ページ以内とし、字数制限には含まない

６．応募締切　2019 年 10 月 31 日(木)必着

７．応募方法　下記提出先に、メール送信の上、郵送のこと

８．賞　　優秀賞　　（1 点）：　副賞　賞金 10 万円又は相当物品

佳作賞　　（3 点）：　副賞　賞金　2 万円又は相当物品

参加賞

（尚、優秀作品は、当協会発行の機関誌「アフリカ」2020 年春号に掲載予定）

９．審査委員　審査委員長として大島賢三アフリカ協会理事長（元国連大使）及び有識者数名

10．審査発表及び表彰　2020 年 1 月 31 日予定

（審査経過及び結果については問合せ不可）

11．注意事項　応募作品の返却は不可

入賞作品の著作権、版権は当協会に帰属

12．提出先・問合せ先　メール：info@africasociety.or.jp　　ＴＥＬ：03 - 5408-3462

郵送：〒105-0003　東京都港区西新橋 3 - 23 - 6　第 1 白川ビル 2 階

一般社団法人　アフリカ協会

アフリカ協会主催　第５回懸賞論文募集

当協会では、アフリカに強く関心を持ち研究活動を行っている方々を支援するために、
下記の要領で 2019 年度の懸賞論文を募集いたします。多数のご応募をお待ちします。

応募要項

１　目的　若手研究者のさまざまな研究成果を募り優秀な作品を発表することによって、多くの皆様にアフリカに関する知識を広め一層の関心を高めることを目的とします。

２　懸賞論文のテーマ

『アフリカの経済・社会開発に関する諸研究』

３．応募資格　原則として 39 歳までの研究者（院生・大学生を含む）・企業従事者等

４．応募作品　日本語 8,000 字～12,000 字以内（2018 年 4 月以降執筆されたもので既発表分も応募可能）

５．提出要項　Word 形式の原稿データ及びＡ４用紙にプリントアウト（写真・図表を含む）

注）応募原稿の表紙に、必ずタイトル・住所・氏名・年齢・職業・連絡先（電話番号・メールアドレス）を記載

1,000 字程度のレジメを併せて提出

応募原稿の表紙・参考文献は各々1 ページ以内とし、字数制限には含まない

６．応募締切　2019 年 10 月 31 日(木)必着

７．応募方法　下記提出先にメール送信の上、郵送のこと

８．賞　優秀賞　（1 点）：　副賞　賞金 30 万円

佳作　（2 点）：　副賞　賞金　5 万円

（尚、優秀作品は機関誌「アフリカ」2020 年春号に掲載予定）

９．審査委員　審査委員長として大島賢三アフリカ協会理事長（元国連大使）及び有識者数名

10．審査発表及び表彰　2020 年 1 月 31 日予定

（審査経過及び結果については問合せ不可）

11．注意事項　応募作品の返却は不可

入賞作品の著作権、版権は当協会に帰属

12．提出先・問合せ先　メール：info@africasociety.or.jp　ＴＥＬ：03 - 5408-3462

郵送：〒105-0003　東京都港区西新橋 3 - 23 - 6　第 1 白川ビル 2 階

一般社団法人　アフリカ協会